

戦時中、中学5年間で学んだのは2年半

岸田 正昭さん

私は小学生の時に高槻から芦屋へ引っ越してきました。戦争末期になると授業はまったく行われず、中学2年生から4年生(当時は旧制であったことから、中学校は5年制)の頃は労働に学徒動員されました。豊中では飛行場での草刈り、三木では飛行場建設のために動員されました。その後、塚口の工場ではパイプ部品の製作に動員され、工場勤務の毎日でした。電車では爆弾が落ちて線路が使えず、徒歩での移動になり、国道を通行しているトラックの荷台にぶら下がり移動したこともありました。

私が空襲を経験したのは中学4年生の時でした。警報が鳴ると、家の庭や道に掘っていた防空壕に避難しました。玄関先には防火用の水槽も置いていましたが、焼夷弾による火災は勢いが強く、とても消し止められるものではありませんでした。妊娠中だった母は先に避難してい



たった一冊だけ残った大切なアルバム

ましたが、途中で焼夷弾が降り注ぎ、近くの方に防空壕に入れてもらったと聞いています。自宅と隣の二軒は焼失したので、その後の生活は、焼けずに残った向かいの長屋の一間を借りて、私・弟・父と暮らしていました。母が防空壕に持ち込んでいた一冊のアルバムだけは無事でした。今も大切に保管しています。戦後、芦屋中学校の校舎は空襲で焼失したため、岩園・打出・宮川、神戸の本山・岡本と、小学校の校舎を借りた仮教室を5回にわたって転々とするのを余儀なくされたのです。

戦争が奪ったもの、そして伝えたいこと 寺島 澄男さん

私が空襲を経験したのは12歳の時でした。当時は大阪に住んでいましたが、祖母のつてを頼って家族の多くが芦屋へ移り、私も芦屋で暮らすようになりました。大阪より安全だと思っていた芦屋でしたが、そこで空襲に遭うことになったのです。幼い頃に母を亡くした私にとって、叔母は母親代わりの存在でした。実のこどものように接してくれたことに、今でも感謝しています。

一方、父と祖父はエレベーター製作の仕事をしていましたが、戦争による鉄の供出で事業を続けられなくなり、倒産しました。戦争は人の命だけでなく、暮らしや仕事までも奪うものだと感じました。空襲の際は、市役所のサイレンが鳴り響く中、防空壕へ駆け込みました。月若公園付近に爆弾が落ちる大きな音、頭上を飛ぶB-29の爆音、そして無数の焼夷弾が火の玉のように降り注ぐ光景は、今も忘れられません。幸い自宅は焼け残りでしたが、向かいの一角は炎に包まれました。家の前にも焼夷弾が2発落ちましたが、向かいの方が自宅が燃えているにもかかわらず、火たたき棒で消火してくださいました。そのおかげで家は守られ、本当に感謝しています。



私は戦争を経験した一人として、その記憶を語り継ぐことが大切だと感じています。戦争は家族を引き裂き、平穏な暮らしを奪います。二度と同じ悲しみを繰り返さないために、次の世代に平和の尊さを伝えていきたいと思っています。



機銃掃射の弾痕(西芦屋町)

戦争に関する記録集を発行しています

- 芦屋市平和記録集「たゆまぬ平和への歩み」
- 芦屋市戦争体験記録集「未来へつなごう戦争の記憶」
- 芦屋市平和記録集「語り継ごう平和への想い」

※人権・男女共生課(市役所分庁舎1階)で配布しています。ぜひご覧ください。
ホームページからもダウンロード可



ホームページ



平和を学び、考え、行動する 平和関連事業のご案内

原爆死没者慰霊黙とうのお願い

被爆81年を迎える広島・長崎では、原爆死没者の慰霊と平和祈念の式典が行われ、黙とうがささげられます。皆さんも1分間の黙とうにご協力をお願いします。

【広島原爆忌】8月6日(木)午前8時15分

【長崎原爆忌】8月9日(日)午前11時2分

小学生の描いた平和ポスター展

■日時 ～8月24日(月)まで

■会場

- ▶上宮川文化センター3階(宮川小学校・山手小学校・岩園小学校の作品)
- ▶市民センター3階(入賞者の作品・朝日ヶ丘小学校の作品)
- ▶シンコースポーツ体育館・青少年センター2階(精道小学校・打出浜小学校・浜風小学校の作品)

たゆまぬ平和への歩み展



■日時 ～8月31日(月)まで

※最終日のみ午後4時まで

■会場 市役所北館1階展示コーナー

「あの日と、今をつなぐ。」平和の常設展示

■会場 市役所南館地下1階ロビー

■内容 平和の常設展示を開始しました。市民の方から寄贈いただいた戦時下の生活を物語る貴重な品々や、資料を展示しています。

戦時中の体験記を募集しています

戦争の記憶を風化させず、平和の大切さを次の世代へとつないでいくため、戦時中の体験記(戦時中の生活・空襲による被災体験・学童疎開・親や祖父母から聞いた話など)を募集しています。



ホームページ

被爆アオギリ二世

市役所東館北側の緑地に植えられた「被爆アオギリ二世」は、昭和20年の原爆投下後に焼け焦げた幹から芽吹いた広島のアオギリの2世です。困難を乗り越えて生き続けるその姿は、今も多くの人に勇気と希望を与えています。

